

☆ 南アジア

繊維景況 **世界銀行、南アジアのアパレル産業に関する報告発表**

このほど世界銀行は「Stitches to Riches? : Apparel Employment, Trade, and Economic Development in South Asia」(南アジアのアパレル産業の雇用情勢、貿易、経済発展について)と称するレポートを発表した。この報告書は、中国の人件費の高騰や雇用環境の変化と、南アジアの賃金による影響を推計し、労働集約的なアパレル産業の南アジアにおける輸出拡大、雇用拡大・改善に関する可能性を調査している。本書の主なポイントは以下の通り。

- ・ 発展途上国は生活水準の向上と貧困削減を模索しており、こうした国々は、発展に適した雇用創出に政策の舵を切っている。南アジア地域にとって、今後30年間で労働市場に毎月参入してくる100万人近い労働力を吸収することを考慮すると、これは最も優先順位が高い課題である。しかし、女性の労働参加率は依然として低い数字(30%)だ。
- ・ 南アジアで長期間にわたって重要な産業であった輸出志向のアパレル産業は、技術要件は比較的安く、貧困層に対する雇用機会の創出先となっている。また同産業は女性労働者をひきつける特徴も備えており、アパレル産業の女性労働者の数は、近隣のほぼすべての国々において他産業の女性労働者数を遥かに上回る。
- ・ バングラデシュ、インド、パキスタン、スリランカではすでにアパレル輸出が重要な位置づけである。例えば2012年、バングラデシュの総輸出のうち83%、スリランカの総輸出の45%をアパレル製品が占めている。南アジアのアパレル産業の雇用における女性比率は他産業より高く、パキスタンの5%からスリランカでは71%となっている。
- ・ 中国は現在、世界のアパレル輸出で最大であるが、今後数年間でこの状況も変化する可能性がある。また、中国でのコスト上昇により投資家はカンボジア、ベトナムなどへの投資を転換し始めている。中国の輸出減は南アジアにとっては大きな商機である。
- ・ 調査結果では、東南アジア諸国(カンボジア、インドネシア、ベトナム)はアパレル輸出全般の競争力、製品の多様性、世界的なバイヤーにとっての調達先としては、南アジア諸国(バングラデシュ、インド、パキスタン、スリランカ)を上回っている。
- ・ 調査結果では、中国でアパレル製品のコストが10%上昇すると、対米アパレル輸出は、東南アジア諸国が37~51%、南アジア諸国が13~25%

上昇する可能性がある。また、中国でアパレル製品のコストが10%上昇すると、インドでは120万人の雇用創出の可能性はある。

- ・ 南アジア諸国のアパレル産業は、大きな可能性がある。例えば、バングラデシュとパキスタンは米国市場への輸出産業に関する雇用が上昇する可能性が最も高く、スリランカはEU市場に対する雇用率上昇の可能性が高い。

☆ 欧 州

不 織 布 欧州不織布生産、233万トﾝ --- 2015年

EDANA(欧州不織布協会)は、欧州の不織布および関連製品の統計集2015年版を発行した。

域内の不織布生産量は232万9,000トﾝで、経済成長が緩やかであったのにも関わらず、前年比3.6%増となった。EUの増加はわずかであったが、トルコなどいくつかの国では強い成長が見られた。トルコ等は、二桁成長を続けている。

製法別にみると、乾式、湿式、エアレイが3.1%増であった一方、спанメルトは4.3%増で高い成長を示した。ドライレイド水流交絡法も7.0%増加と大きな伸びとなった。

最終用途別では、依然として衛材が31%の最大シェアを占めており、717,200トﾝが出荷された。また、2015年に最も顕著な伸びが見られた分野は、自動車(+9%)、農業(+11%)、ワイパー(+11%)、飲食関係(+12%)、フィルター(+17%)であった。一方で、芯材やコーティング基材、建築分野は大幅な減少となった。